

Eval-QUEST : 学生の発問を促進する リアルタイム質問投稿と学生間相互評価の実践

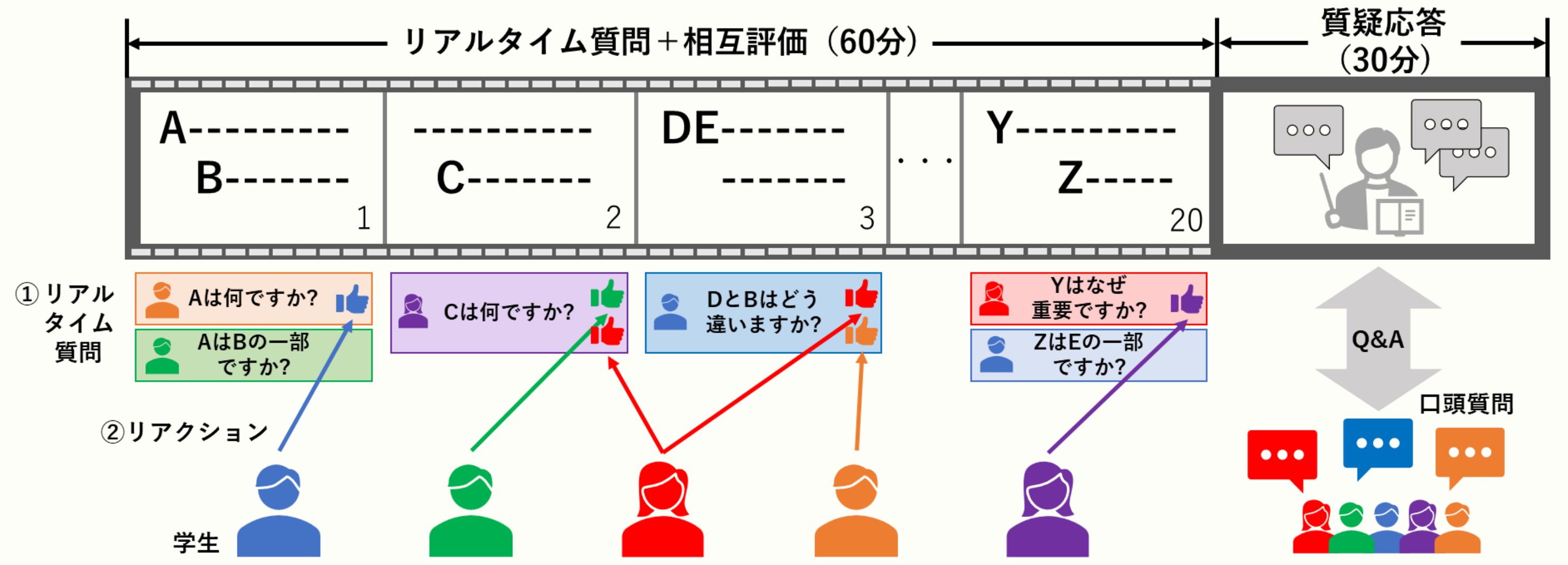
井上沙紀 (関西学院大学 大学院) 王元元 (山口大学)

河合由起子 (京都産業大学・大阪大学) 白井詩沙香 (大阪大学) 角谷和俊 (関西学院大学)

学習者の発問を促進する「Eval-QUEST」の提案

◆ 本研究のアプローチ

- 学生同士が互いの質問を閲覧・相互評価する環境を整え、質問の量と質の向上を図る
- ① 講義中の学生のリアルタイム質問投稿・共有による質問投稿の促進
- ② リアクションを用いた質問の学生間相互評価による批判的思考力の向上



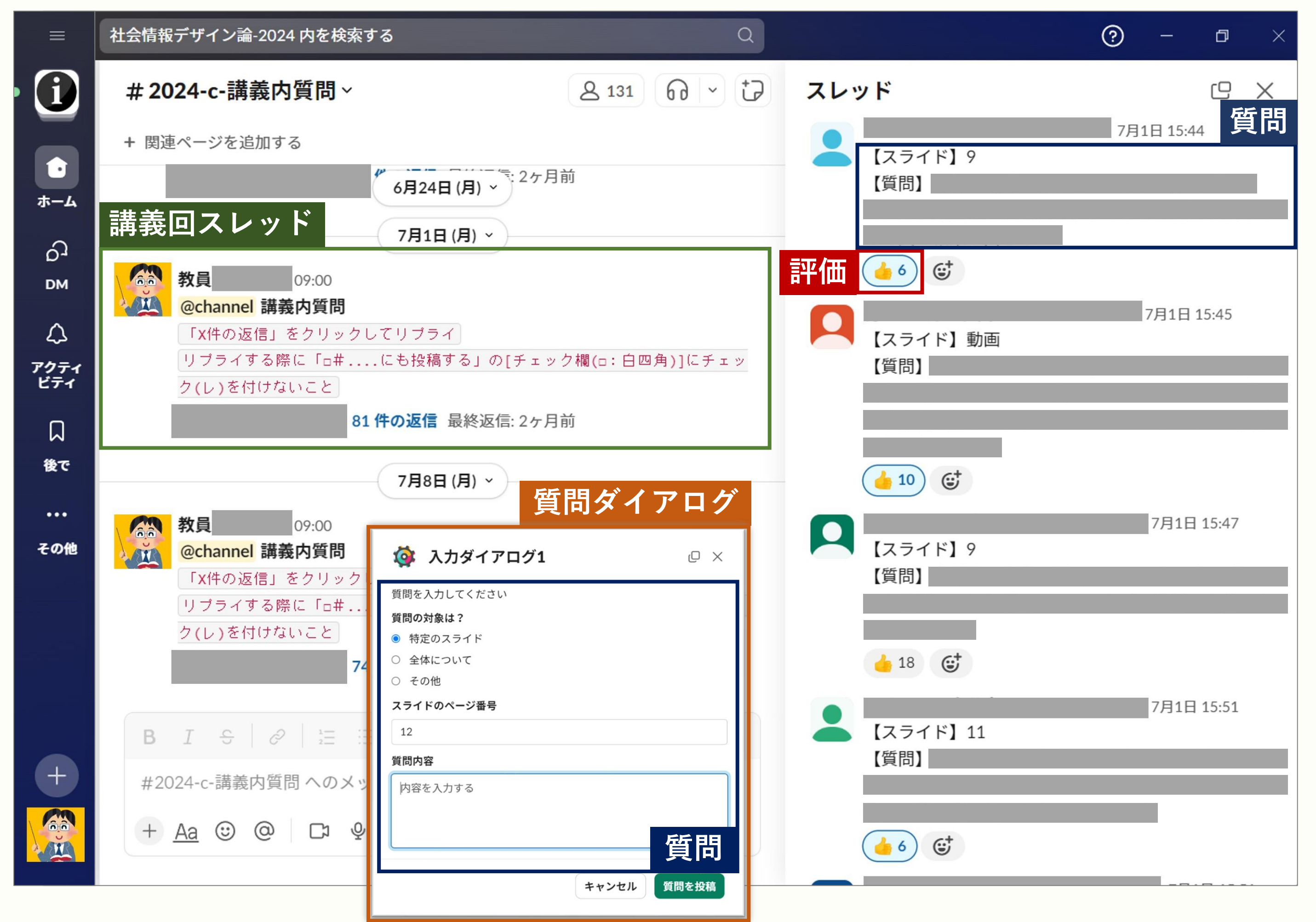
リアルタイム質問投稿と学生間相互評価の実施

◆ 発問促進方式『Eval-QUEST』

- リアルタイム質問の投稿：講義受講中に学生が質問を**思いついたタイミング**で投稿
- 質問の学生間相互評価：授業を受講中に他学生の質問を**閲覧し**、リアクション「good」で評価

◆ 関西学院大学でのシステム実践

- 科目名：「情報と社会」 (角谷和俊 教授)
- 形式：講義60分 + 質疑応答30分
- 対象者：総合政策学部の学生55名
- 講義データ：講義コンテンツ (スライドや動画), 学生データ, 質問, 相互評価, アンケート
- 指示：1件以上の質問投稿 + 10件以上の高評価

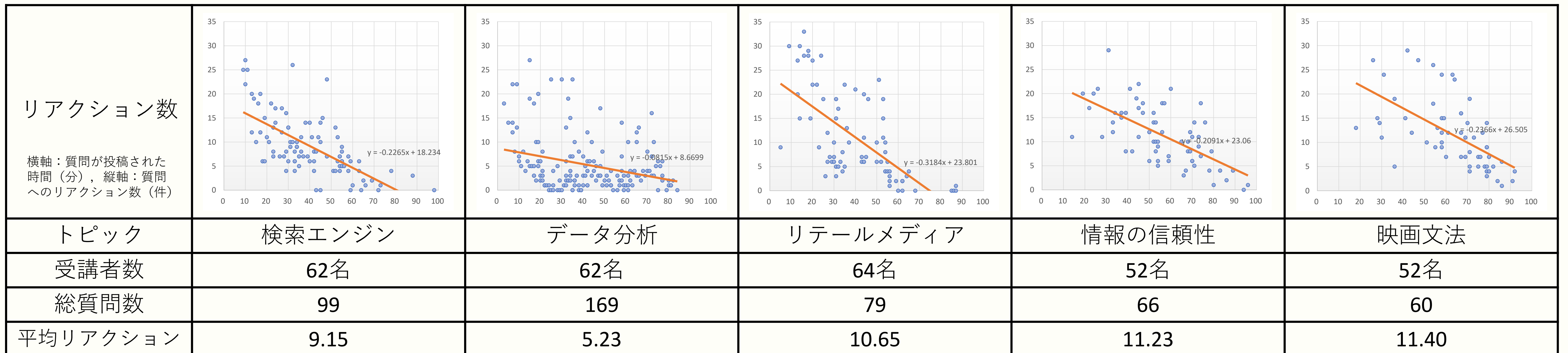


Slack APIを用いたリアルタイム質問の画面イメージ

◆ リアルタイム質問データの分析

- 質問が**投稿される時間**が遅いほどリアクション数が減少
⇒ 授業後半に学生の集中力が低下する可能性
- ⇒ 授業ごとにリアクション数の傾きに差がある

- **総質問数**が増加するほどリアクション数が減少
⇒ 質問が多いと各質問への評価が低下する可能性

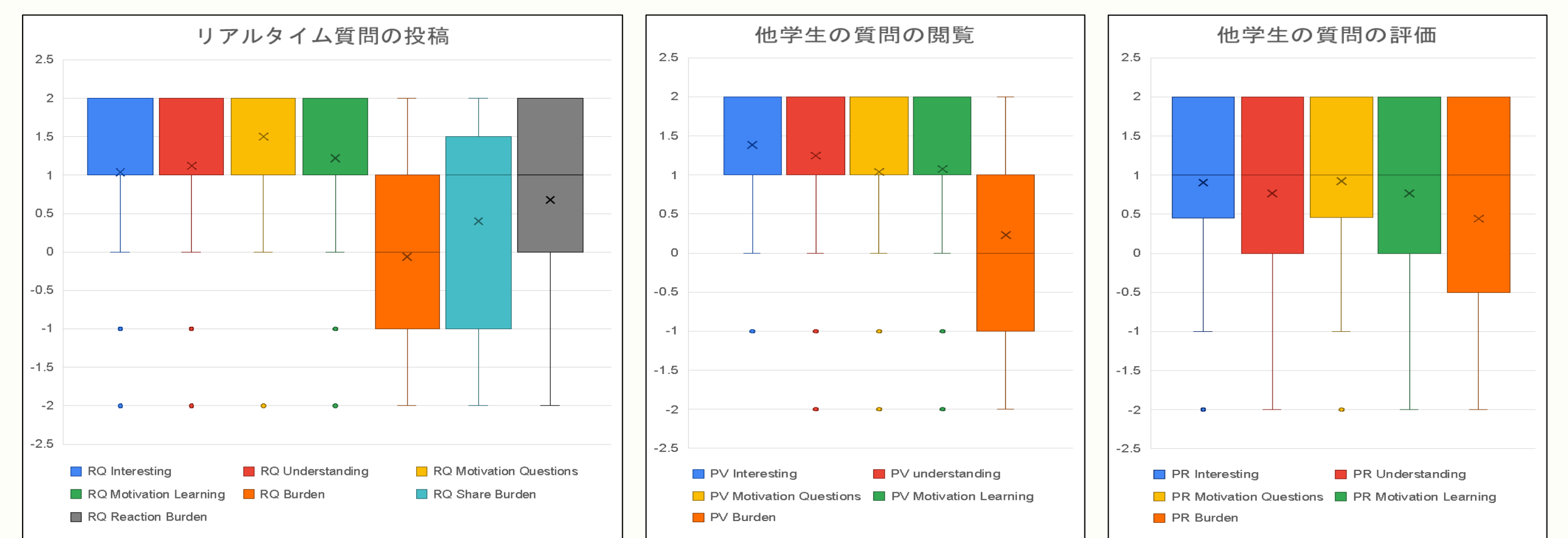


- 講師と学生の質問評価が異なる可能性
- 1) **学生**は**実用的・汎用的**な質問を高評価

- 2) **講師**は**批判的・補足的**な質問を高評価
- 3) **講師**は**学生の考えが明確化**された質問を高評価

◆ 学生アンケートによる発問促進方式の評価

- 対象者：総合政策学部の学生52名
- リアルタイム質問の投稿, 閲覧, リアクションの順で高評価
⇒ **おもしろさや質問意欲にプラスの影響**がある可能性
- 負担感**は**質問のリアクション, 閲覧, 投稿の順で大きい
⇒ 負担感の回答は**個人差あり** (ばらつきが大きい)



今後の課題

◆ 今後の課題

- 質問のリアルタイム分析・可視化システムの開発
- 教育コンテンツ研究データセットの構築

◆ データセットの公開

- NII情報学研究データリポジトリ (IDR) の**研究用データセット**としての公開を検討

DEMO

